

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

論述 (1行30字 2行×3、3行×3、4行×2、計23行)

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化)

分量は2行増加。難問は姿を消した。

出題の特徴

1問を5・6行で答えるものが姿を消し、すべて枝問A・Bという形式であり、短い行数でまとめることに苦労したであろう。

その他トピックス

2014年度、「東大日本史」夏期講習で古墳から氏寺への展開、冬期講習では鎌倉時代の西国御家人、大正時代の民衆と政党に関する問題を扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	論述 A 2行 B 4行	在来の信仰と仏教	A 自然物や祖先に対する信仰が展開していたことを理解していなければ、条件文(1)～(3)が利用しにくい。 B (4)～(6)は教科書レベルの知識であり、的確な語句を使用して簡潔な文章にまとめればよい。	やや難
第2問	論述 A 2行 B 4行	惣領制と所領経営	A 条件文(1)の所領の旧国名を見れば簡単。 B 惣領制と分割相続というやっかいなテーマであった。この分野が不得意という場合は難問となったかもしれない。	標準
第3問	論述 A 3行 B 2行	18世紀前半の生産と流通	A 西日本と東日本の相違を前提として、設問の指示に丁寧に対応すればやさしい。 B 幕領・大名領からの江戸への廻米に気づけば解答作成は容易となる。	標準
第4問	論述 A 3行 B 3行	第一次大戦後の政治・社会運動	A 原内閣から護憲三派内閣の成立までの動きと、その背景となる「社会の変化」をどう結びつけて説明するか。3行にまとめるのが難しい。 B 「国際的な性格」の「社会運動」が何を指しているのか迷うかもしれない。ここでは、日本共産党の結成と労働運動の高揚としたが、他の解答も成り立つであろう。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

代表的な過去問に目を通し、日頃の学習にそれを活かしていくこと。その際、できれば解答を作成し、添削指導を受けることが望ましい。そして、夏期講習段階で予想問題にチャレンジすること。

また、文化史を不得意分野にしないこと。作品暗記だけの文化史学習では通用しないことを意識して、政治・外交・経済との関わりに十分注意すること。